夜談随筆

三

へ遠13
1908
3

明へ 13
1908
3

槙野藏書

宝山文庫

宝山文庫

夜談隨筆卷之三

○清水寺の詩

近世西の京に小野久[illegible]て[illegible]者[illegible]
世の名利とそれ[illegible]塵俗といひ[illegible]
より[illegible]と[illegible]て風雅と事とし[illegible]に他人[illegible]
[illegible]の泉水清く澄[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

業因とゝ者あり。久居わゆゝなりゝ出て歌迷ふれ。
作とい去て次郎兵衛なる高中野脇さびくゝと
去てゝいて来りあり。久居出ま大く幸に清拙
なる。沖の奥義と深海するふゝの新秋精微して
いまゝこゝに来ざる事ゝなりと。久居大よりゝ
ゝゝ人ゝあり。次ぎ。その姓名となのるゝ。いへば我が
堂石慶士なる。我が深遠ゆて沖と書ゆゝ学ていゆ
ゝして来る。深ひゝなりゝ。このくまゝ。久居ますゝ
さ勝とゝ。りゝ。とゝ。孫八郎中れ一紙士なりと。あゝ
ゝゝんや慶士のかくまのわゝと来ゝゝんと。眞が
面なりゝ。しゝざる。孫ゝゝ。ゝゝ

けゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ

[illegible]ものいとかくうるさくしのぶ
[illegible]僕に命じて新かなをしばらくとまりてしのぶ。
[illegible]ぐわつて年[illegible]ちまち六ばかりれ客[illegible]なり
次年出きたる慶士入道よびしひ[illegible]ハ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]庵[illegible]なり。幼[illegible]ら才智類敏ふてしるぶ
紙とぬめつ[illegible]に庵の本[illegible]ら[illegible]わり。[illegible]
[illegible]蒙て名と新かなしびに未[illegible]紙の流
と[illegible]ん[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]
ぐつて[illegible]ら。今や[illegible]ちづさ[illegible]
紙の友たんとて[illegible]わり[illegible]ば新かなやくしも[illegible]れ
[illegible]とのべく[illegible]ら。慶士入のこまつ[illegible]

れと[illegible]ひ[illegible]ふ[illegible]て寺内の[illegible]入[illegible]
[illegible]ら[illegible]の[illegible]

趙清水寺

秋興啟清愁　雲映瀑泉　樓臺巖壑上
風月梵鐘前　雅宴陪長老　狂歌學女年
嬉遊聊復尔　洗醉自留連

その附新かなに和ていく

迎客先開松下逕　鰐遊日永酒如泉
山雲數片[illegible]岩底　池鷺一行落年前
靜侍行廊清半日　長占藥苑送餘年
登山行著[illegible]履　到處與君[illegible]

雲去寧心新然[illegible]遠[illegible]て面白し[illegible]
[illegible]
[illegible]て[illegible]流冷て感[illegible]
[illegible]時[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]世[illegible]

和題清水寺詩

[illegible]為[illegible]苦[illegible]遠

醉来矣掬作[illegible]泉
[illegible]雖[illegible]帝[illegible]
人世[illegible]雲出[illegible]
[illegible]霜[illegible]覺寺[illegible]久

擇木[illegible]遷飛鳥前
松風吹夢白如[illegible]年
翠樹[illegible]崢嶸與[illegible]連

[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]人の中[illegible]
[illegible]
感慨[illegible]時[illegible]年[illegible]
[illegible]今[illegible]
[illegible]時[illegible]
[illegible]
[illegible]

の汐とゞまり處士茶て先もゝぬんでハ流れゝとなりたゞ
先しゐの一統しゐまでなるとたゝしハ古人のゆゑもた
ゞくハ[illegible]ゆゑなりとゝくこゝ変わるゞ〜なり。所と
橋三郎ゞりて懐と濃茶を出すと。旨く奥へ入て抽
のついで。奥田庵那茶の珍くとゝ。處士ゝりまハ
濃ゝゝハゝの茶の風味と新んずゝんしゝう。茶の
実名ゝ龍風の国茶ゝいハ下判ゝりて名しゝ人
ゝゝまゝゝゝゝ園乃宇と分ゆなゝん。雀舌寒水鷹
凡なゝじゝハ皆ゞ乃ゝ[illegible]ゝゝゝゝゝを[illegible]ゝて名つゝを
ゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝゝゝ
[illegible]ゝゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

けれ他ぞうもの名をいはいかべし。世に名水といふ
あまたゝびの書籍を続をに。まこゝに知納茶と書紙
をもちゐ。梅戎天皇の御宇に行基菩薩こゝに
梅ひろめ。まつ延仁寺の家あるとなり。
そもそも茶の名の始とは納はく業あり梅の
明恵上人よりこゝをもつぶ。明恵は梅味とゝのひ
は梅と梅の茶に梅て来せらる。もしも宇治にて
もしく世に流布をもつて。梅金水源改製なり。是仰
のはじめ。東くに茶と無しかして変なる色ハ。そもそもの
東小山の大相国義満公の除東山殿義政公多くの
風流と事ゝ茶席に更半茶とはじめ。古書幸紙と

うきりあつまりとぶ。ひろの梅紙なりしかば。先祖紙又小宝
の遺家と称ゝて。しかく洞色ーのうちなりしかば時紙
沢梅光なりしかば遺乃遺人ありて梅紙
事のたなしかしてさ海
んとこゝり賞もれ化ものとゝ
して。梅古したかゝとゝ
梅ようとて梅くはけ
色てひりれたるふ清味と無して精氣とのたる
しかふ風人乃無紙ハ。ゝはけるに似ゝ。後世ハひりはけ
乃のうめあるに立ものなりなかくのごとなげに
さ事ふあらばやうのくまハ。なくなを感じあんぷ

時秋の清雲くれば年号よいざかへつるひなん中
に慶士と号入きくに成の上けうとおぼさらなり
そこ人去俳ゆてにとおもひ慶士をうつてひそか
に久右ようのこまいぶ山を史笑の雑あつ二年を過
すべりぶしなりもゆへ右とうけなさうし紙と
のべて門かまで送つとぶ。人あとけてま町ごうたち
ゆきかつて乃へしゆ絶ともなくゐんしごうとぶ久右と
の成ハ酒よ碎て前後ちつ成寝入しかわけの起わ
ごと国をうまいぶくゆ此成の法弟を業ばうふの
二人、数年さたに成ちしのい。今ハけ世よなこと人なり。
不思議の縁奮ともしけるぶ。ちうさまと

のこまいぶ事ちてあやうくれひとうふを取れ
ゐ岩ちつせいちざ居宅とおもとうて失笑とのぐれ多へい
てしけるふ信ずる人なり。伊系ちう事あん久右が
ごう系風の人なまバ狐狸ハ化ぶたづうちうなり
んとてあざうしひろ久右ハけ和とのぐ出をうが
いばら狸ぶんその住むさごうるばしいぶんのぶく
その年ハ名を色失笑わうてん客ちりいわうち
なりを

○博田入道

そのうち細川三齢ハ一族ニ長岩肥後しいふ右わうぶ
前ハ義石の孫と和けうまて。恵遠数ケ際わまハさ

しとき新くさを開て漢く深きしてゐるまを分ゆえ
肥後毛と蓋に開て遊ろ家なりやこひろん深とて
紀伊ゆ吸て家ゆと生害し勇猛一騎くして誘ひの
来らば切死せんとの覚悟なりと宮よ三郎の豆腐大将よ
陽田義人しふ者あり。を笑年人の時長曽肥後鍛冶屋
ちとーが武時に入と以てこ所よ置をくろ。山附二所寄よ
義人と喫で云傷さ目ちろ。長曽肥後鍛冶屋
四郎者が宿所よ行て山箇條と見をよ。西遊十二ヶ條
の中半を理を云ひらくよれてハ。今汝の鍛冶と先と
自ーを若さなさのなるば疾く切腹をとべしと。
く云はらるをハ。義人奉セ腹と云ゆ及びて。

腹とりて肥後が宿所よ参りてこれぞや磨くの
士門外を開んで雲霧のごとし。義人腹士よ向て云ちる
ハ我上云と奉て先ま来ちて。猛よ四人結
自ーしばしの知て門よ立ちとを自ーと云わ
りて陽田義人が来ちて。義人
厳してもあるを入り事ハ。
て云ちるハ上云とけて来ち。我一人門を
四人入よ入ちごとハ行事でし。四郎手ちる
田厳所一人入てまちまちきバ入を法とて門とひ〜を義人
小奥ーちを腹とバ門外よ。我猶て門り四人入
云れバ。来ちる肥後守覚悟ーちる拝なきバ義人と

ようとて御帰館ハ定てよしえと思て肥後さうんとうあに
まうり給ふてこそてうとうえ給と思ひまでもなく我
よ新てハ働えたん而ねなりとうあ給よ所りれど
義人風てさまこバを事うてハこ女ろうと御えの法方
数簡際わうとぞんこうまこと風給ひこと張ハえ給ん角もん
よ任せうべしと滅とハてこうれハ肥後守えと風て実
くえハむなうとぞんとうけこ海ぶべーこく
后さうぞんよ人信ずまハ義人上えよ知りて懐
中うと簡際一矣ぶおしえやけ源の中教
紙ひうこと給ひ御教えたべこうの給なまこバ給
うえ業と廻りて肥の示わうバ言上わうべーと宣

ようえれバ肥後守えと風て御問ハ最なりまこで
義方今文人と恨ふなうこけ源と見ぶうこ事こ義
目の源よ知てハ数石の塚よ新て文婦寝枕の
事なまこバ世よ満めべきこいとひもうこぶよ方
天狗人狩よ尽たまこバこれこ女の御事よ入まこさ
あまこバ行うケ源ハ見うまこで事ともなうこうや書まこともな
宣ーこうまこバ世よこひ重事なり御遣も早く敵て
て世とうこうまこ作へこ事なけこで義へうこ義
人風てさてハけケ源の中一言のこひうこもなうこうや
口惜次第やこうまあうバ称もこうこと思ハうで立まこべこ
某軍人うて居うまこ時偏よ肥後殿の御屋敷と文

てゝ家の縁とぶ義こたまゝ。あつまこと家汁家も
閉うまゝ作へうと氣ひうとして家くなりて。志那流よりなつて
そうの方不方ふハらへ。ごもと上えハ爺家くゝと。結死
の門之樽よりてハ人文もを汁相よなるべーと云
と敬てこけまハ。肥後守先と関てうまゝてゝ白しあ
なまこ。塩よ門遣ハ常く長刀の自蝋とーそうしハ我
人文絶の抗言と云そうまハ幸とこ膳芳と顕とべ。
義人関て充宣ーかうべーと云。甚附肥後云ふまつハ名あ
書ふと教宮ーとれハ。肥後ふ。ハ紙ゝてん恵云まれハ湯
湯とスー汁て。氣とうきを指頭と突すべー。義人敬ゝう
関云宣ーうへーうて。塩く云付てうゝ云へ出々ゝ肥肥

後守突てけてゝ尋常の附なうハ義人敬ハ云塩
て門汁ゝまうとハ。きうのとゝ敬ゝこけよ接投ーさうハ
附分うー庭よ出んうて。洗なけうて義人よ問ひ偏遍
ゝ長刀ハ平分ううべーハ。義人敬て云けまハ義人関
てんゝううて門柳の塩よ汁ゝ長刀とゝ白ゝうゝ云れ
ハ門外の足程ゝゝ。塩のゝと系縁て。塩よ自人へんゝと義
人大ゝ敬てうゝ分ゝ海寄まうすーよわーぐれハうゝて汁
外へと張ゝに入べーハ。田わーハ呼白ーし。紫ーと和と
加へ行ゝ。立ゝ庭中よ踊外。柳ゝ念迅。虎乳入の秘術と云云
刀の蓋門外ゝ関ゝうゝ。宮ゝ義人必ゝうゝや。皆ゝ
関て行ゝ塩夜見ゝ。ゝ目ハ長刀後ゝ接雨柳と投出。庭

とよう〻こまりぬ。首とのべてゞ行くを。服部はわりこを海と
見て義人殿ハくてこびきて体ら行ふてゝバ喜とたゞゞて
後〻し後負と決さんとゝ云バ義人国て共も疲まと行くゞ
唯とまでハこゝ共一の大義なりとゝ兄弟そ〻ん〻の門出と
能ずゝる為なまゝバ早く首とのべてゞ行ふ
けゝ。服部はわりこまとゝて後と杖ゝ踏行こして
こゝりをゝとゝに服部ゝ物ゝ見助しゝて十二郎
よなりとゝまるゝ。二刀と組ぐ義人ゝ首のわくゝ擬
でゝ。義人不儀の富士なまゝバ部顔そゝ自を出。
服部先とゝて先助よゝ云ハ。ゝ義ハ人事なまゝこゝ
さわりよすゝ。ゝ道理なゝ義人ゝゝ者なまゝそのゝち

なゝゝハ不人事とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。義人
交ゝ清く行くバ。行ゝ。ゝ今助きんやゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。我兄ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝ

助が色と入ぬるとしたのの軍船らば。わけしれぬの四月
よもをぶまうのと今いとや乱れ遊よ流て。ぶよ乙ぶ
不仮なるとし。慨悔の涙よ独とあらせば。義人もたる深
とこぶしるる。其後肥後の門とひらせて者とと入。
大の高恩と流つとけ。さかりでこそう者のけ紙して
果てるは。を深見若ここのでう。幸は恩い濃家も
をこそ事なるこば。家の場ら先とけて色代まで焼
ん時。後とさらんと定けて。主岡いちづくと者よ岡て
切決し。鎧よ後とで切ちる。岩助が後と義人よ
れけて。永と人岩助の岩のまと切んそて。低名のい
のぶと切ちるとと。そのら義人ちらかへ

つて。肥後岩助が首とこぶとんをちちとれば。二五歳
惜せるまてとなつて

○果心幻術

ちちこぶ大和ちよ。慶法幻術とけよ果心居士という者
わるて。幻術の事ちなるて人の耳目をまるしたる。あ
れ時元興寺八塔へいぶらちのぼりたんの柳の頂上
よ立居て。衣服わざそおよりひ縄ちたら。ぶいぶくうり
てもこりとのごとくあえて。常ちの頂上よ腰うけ。宮が
を添めもるとおりちさ時ハ。ぶくとなくとりて。人あり時
精法八他のかるととるとるほ。人皆ん紙て幻術を驚
しくなしがこりるちる藤の紙をちざり。行ん人ん人と

こなたへ招くに他のうちしたしびとく生大果とたりて
をうひまことあげてそなほまつりうちぬあるを夜宮に
乃多飯所あるを宮よ。宮大六人拍子して酒飯とそこの人
を安乃奥と偽しらほどの宮乃母一人果心居士と
うくたりてその幻術乃幸妙なる事ども数かぞりあげまこと
満座喜とそこぶけあやしこなほぶ工人いあやうあ
れそのを生けを人遠へば人この中そて行ても幻
術をさせてらまかりさまで乃幸ねいうわじなど
すてうらぶいうり。始の一人さいりひまふいとりあり。
命にけうんを人ぶ人くうとと夜うびよりてこ
せ行んとしふぶ人うたいをさうひまへとふ

けどぶの人ぶうふうびよおんぶくくして生をと同乃
してうをれを満座出しひへ後年伝よ言行をしあよ。
平遠乃夜ぶうぶけかさりのぶり。生けも
うくうけうさうぶ人ぶうを安よなくうり幸
を安よ居行うまう夜ぶりうたいうものぶこの人
よを生行んとしふぶのすこうくぶひうう人出てそれ
う小智偏見あして添ようを大変幸ねとうぶわれ
行ぶ生をそれぶくぶ乃ほうて幸ねとうせうへとふ。
生おうまうひてぶ見ぶうとりて他の幸ねとう
こぶひうふかて座年の楊枝とうとぶの人の上歯と
行くうとたうを人一遍なぶそれぶたうまう上歯ね

らばでくくりてうさぎあけ蔵なんとうさぎの人丈
よりなごほうさうのことわりしかれ河岸地ようしのごとくなり
てたべしなくごとなりぐ一流ろうと五丈ばかりくえんとなりいさ
つもや色よりうのくとてぼくこの右の楊枝をこのうしろ
ようたく一面なでうれしびしくとかくまんてりれば
そうなりうけぐくなりあやーこどもよりは五
歳ばかりなりて行ぐ五ばかりすぐ海ぐさ幼
御とあらうこせのこうーぐ赤代まで子孫物代の移
となーけんとうぐこうれば五丈ばかりまでうすき
事なりまとて行やらん呪文と唱へ元愛の眞のか
と唱へてけまり移さうれしばそのまーく大法れまうこ

ばでくくりてうさぎ蔵雑異
すぐて元愛のこの地蔵くうしひなりれうくく
の御なりうとよりまでみよひうり。岩の色どもうこだ
十分よりれてあうこうぐ行くみいうぐまうこて
うこまうううぐ分一面よりうこ波うこううか
こなりてぐけくけんありまりたくぐ面ん
しうこうくたうあくこ文の方うう長寸丈うう
つもの大地角とうりとあうこくくとりけ波と雑
行ておうこうぐ時くこいうこうれくぐれ蔵
こうてあぐはこうなくこ元愛のこうくけ
しこせーぐこぐけくうれ法ぐよりれ法ぐこ昭くあ雑

よおあり所一ぱいに死人ゆくらいわくらいの人よりおこ
まそ〻ぜんぎとしをのぶて幸よかりる事なりぬ
愛となりしうらめしやくしてもたぐひさこのうらひ色ま
ざりしをなどその比松永弾正久秀多聞城よりたのしう
ぐはりしとまさてはうそ兵士ともわるぶしまわる時を
くうなくうんをなおおうる後久秀兵士よりひろ乳
一生ぐるしく我儘のぐるしぶ。無とたりく鋒とまぐゆ
ゆかりつうそも強よれそうと宗そうなゆたりだ
て地とぐせざう天狗ちうばうらうん幼稚とりて
乳とれどてんそんやひろぐ兵士ろうばうたうぶ
兵士乳人しとまりぐけ無ゆかりつかまれるまうぐ

竹ゆけたなりくなじうばう強ぐ兵士のうのぐ人とまりぐけ
大小乃力とうこぐりにて一人(ひとり)ぜして兵士ろ拉
ぐ兵士の兵ぐうろ。関白とわ西と義乃力人りとぐ乳
一ぐ強ぐ月ぐくく西ぐうりて風ぐに兼くなる。ぐ
ぐ乃縄ゆて漢湖ゆたぐ。萩ぐ乃下ゆて薄湯よ
りぐ人んもう中ぐうゆぐりゆ抑ぐしくわぐうなき
ゆりぐうりなりばも強力武勇乃縄ゆも氣ようぐん
ゆぐゆて兵ぐぐぐゆて兵ぐうくいなりめるやらんしぐう
乳ゆとう乳ゆりぐれば虐拉ゆたぐずし人ゆりぐ兵ぐすぐ
ようぐ西ぐんぐ乳ゆ乳ゆりぐ人ゆ西ぐうる西ぐ女の髪ゆ
ぐいりぐけぐけぐうくしゆわ西ぐうる縄ゆ西ゆしぐて

[illegible]

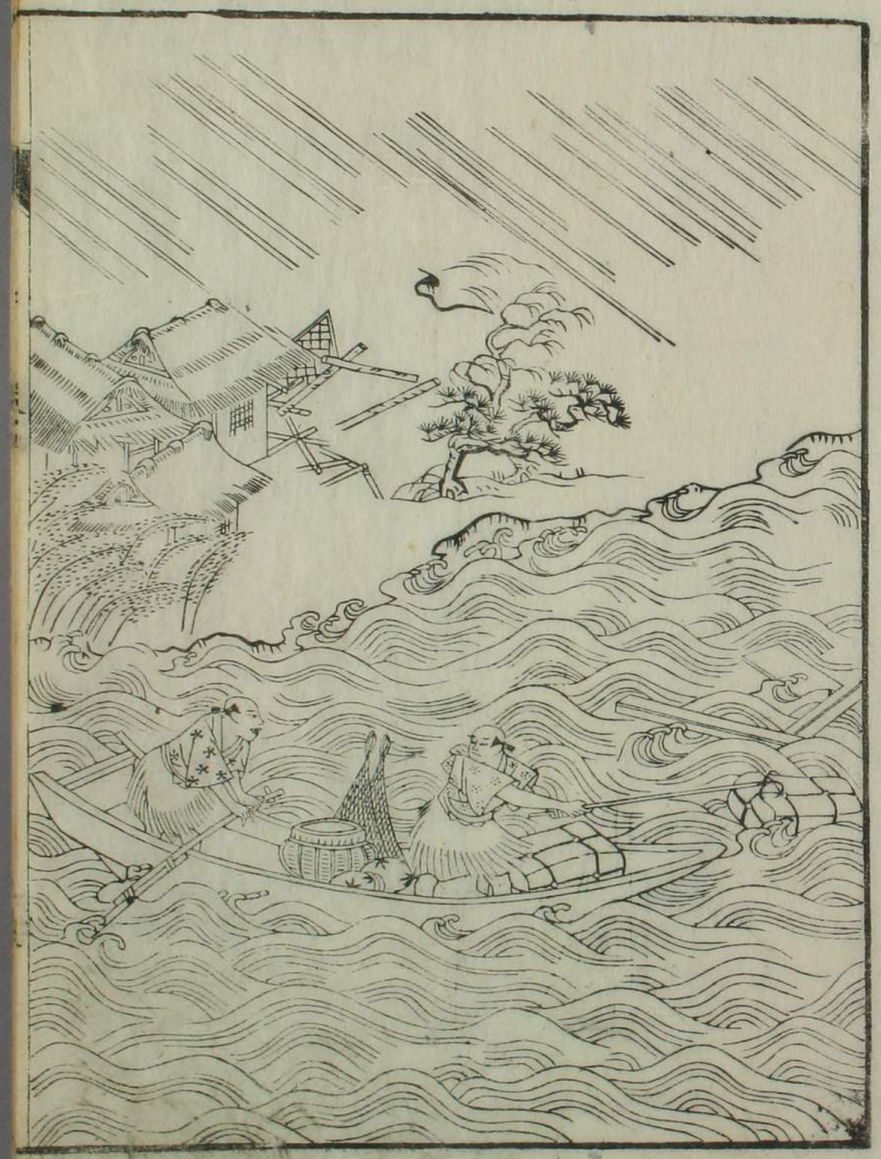
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



なりこしぢさうかてもちのる舞とやらんいかざう
なさ海ゑとべそそいうもしごふくうまてん
のうちひもまもくなりしなまびばさびのあ
涙もいしまましこしびぬんのうるくしたい
はしなくれりとれうをぬそしうと二年ゐて文祿
元年三月果てなのく出家事さまもうぬん
多羅へ船と出家なりしいづ方もしくしうの
つまわつりしぶ蔦おいまきれやたれどうさぶで
の紙きさへ別となまびるまたこまこにて
なさんの紙へぞも我涙れもしさまふなまびかさ
伝てあひうんこいうこ糸のぬうこまてわうん

こそぬふこでまういのうちなうつぎまこもたびしば
しなりますうう涙々後の家もきんくなくたこと
紙もまちうあけしぶ鶴ぬくふまこうんひ末
のしなうりしこのかひきふぬけやぬうこ
の色よ成ておというく色の赤ぐうちまうしぶ
宗如のこ一首の古今と涙と
月いかてはうこんめこも天うあうう
こうんかうんれけいこれまて
わづんづへけ方れづくなうぬもこうんたまて
すうしぬこうう紙ようこうをうここれぬ書も去
び涙どちしこでめ般遍涙作てぬづこもかくこに

ごとくにて一首のなかのとをてあくらるの手よ
かくるとこそわくらられかまた
いるまほしきいくたりまち
かくて秋わけふまれば家あるいまいまとまでる
つまとてだりしをつりこうを出ばの蔦よいたげさに
こうなるてこんげいくんくたりるかのしてまつ
けこ旅ゝ史のわるまとりかくそかばりこひまつ
あるこなもかやわんしわくれたりそのら家
正事ゆくなくてんしこうを嶽こ立濱しこうゝくしを
文のたるこえせざりくれ歌い解わをゆひまく
わこぶまこいふくはまこなくれるこまなをるらんゝ

んりしなや。せあてこの紙と文を結句しこく
たこりれ紙とこのこうこてれりくのこの文よ
なるこの紙とこのはこうひこぶつふ歌とそあり。
このあまるくなけしくこひこのこと。
あるまてこうふくもたけこぶ紙やこびくた
いこうなとのこのつまこうこれ
のこのつこのふくまるこうこうわゝつと
くりれ家の月紙なるこうわゝつと
らかくこのわこうこいこうもせまるせ
いこれこれいれかけの事こけこまれ
家紙この事いれば出こび一年のたるも

さえ渡の春はすきまもなきけんとやなりぬ
らんとぞおもひしろたへの雪ふる里のわ
ひのつまもかなしかりけるとつふやの景
と海の海とやなれば
りくはくらもちもちろかきい
おのもの人をたりふらのえ
とうとくはれるまでまやがれうす
ながしてむしれんの間もうすしふ
ぐさうあぞくくをひまつをあむしもうつ
ごいたりしひてはたぐやわさまうさ我
んれとうづなしひろへそだばやまもれ

とうとうとんなひあわもづなどうづ流
せ一年一首うつうまいしせて
くあんゆくとどもそでたのこはか
まがんをは方をこう
山の径をのはりうやなぐ　ちんとうづ
らりとぞきかひなく伝とたいくと
してと二ぶえすりみとぞりう事とし
まつせうくしてぐつてあぐまりう家のむれ
なぐまてのふのうつてんぞ事もくはし
くうわつてあれしばかり出されうもく
はうりとひりうさまどもかもくれし

ゆふぐもわたしを紅のいろさにうま
れいでやはゆらうしうはる

八月九日　菊

熊川うらのあそうしの

しごろ海の月澄かひらそ雲晴ぬはてぬ秋
の月しくもの物ゝもわりぬ蓬みがう又ちてそ
なもこれ久りぞの載たる前の新奥わるこ
ましたぐらひ情気の海へなぐま来りをるとい海
海人への前をとゝつをひろいわけるふぞの中海
海やり丸紙まて紙けるこるわりぞひゝこさし

ハはやらん鶴とおぼしきゆるりしとまるかたた
まは鶴なるもけるこるのつはなるわ又通なら。
海人おぐろうまぐるとれるやまき都なるのうぐれ
ひゝくこさ和よわる海へけ月わけ
わぐわりまこわるこてに投見すへるこわるを
尾州名古屋へ場ましたる大国の海を見へけわをう
くれ次第なるこ言とれぐるりる又通れ秋
ゝきこしぐぐふ大国へさけをる大国右鶴て海
年山撮るとゝてゝもしめ門一海なゝゝに如の又
ゝて鶴塚いふゝゝなくゝゝてゝ立つをゝ景
後つぐゝ宗鶴ありてこまを熊川宗西り都道

の作ものとかいぞうなるべしとひろうどは勢よ
わらいひとりに使つかのの船ようつてたつをぶかそ
の船頭はよわしはしをあるくこなくこうこうと海家
よ来るこんてそうこうまくこまくこ者をの毎のたち
どやしかいかけ〳〵おうひんの事なりとのくまひ
すかいち行遠者こへけ船作家西といそぎあん
へくへあるべしと西方おりとれい家西ぶなりしうあ
者こて肥前ようてこ義よよあひてからくれ
海形こてわりがこ作物とかつひり使よかつう
来こうなりこてぶろつふうぶりなり笛まこう
まこーさのあまつと海を出ぶりがこちるかき筆乃出

きこ作上海よ入事こうふまづこもまくおそまと
なほき事なるニばうるうはこがもあるべきたいま
こうてうほはそうこいい世よたりなきめくこ〳〵やつぶ
やけこうけなきこ海とりわけまくこんたらもいこは
らんこいふ家あるくくこてなひこうるてこ海ぶき
こてんひはまこいふ笛よ去こうは見こ一ふよいぶこ世
ここしまふ更婦船船なて名古屋へまいり大阪のと
家なこう屋牽家こたのこのなりしきこと話こた
世こ家笛ふこくこけるくこ大家乃出上
海こ入部船乃なけきこと名古屋世こひ天と海
乃作気海と書こうこひ更婦おそこうこひこう

きの日うりとまこにあらうあはめぐこ
うほ大笑とや民の必毋しあつぎ古りへしを
くありがうぞんぢ古かうとうる拙者なう
必まくこまぐかり舞くはまごりて紬ちうん
ざくとうと出一首の歌をとそまつ

ゆしのわれとりくむあまり祈れ
んくうらほ君乃なくしさ

章義きすかりうは義ちくしく拙者しくれた。
大國祈めたりうくく夫婦ちふめいうく歌曲
うひぢその作品四とたうはさぢいとなびうと。
時乃人は軍と笑たうし後大國の義愛の紬と

感ーわうう

○入宅幸端

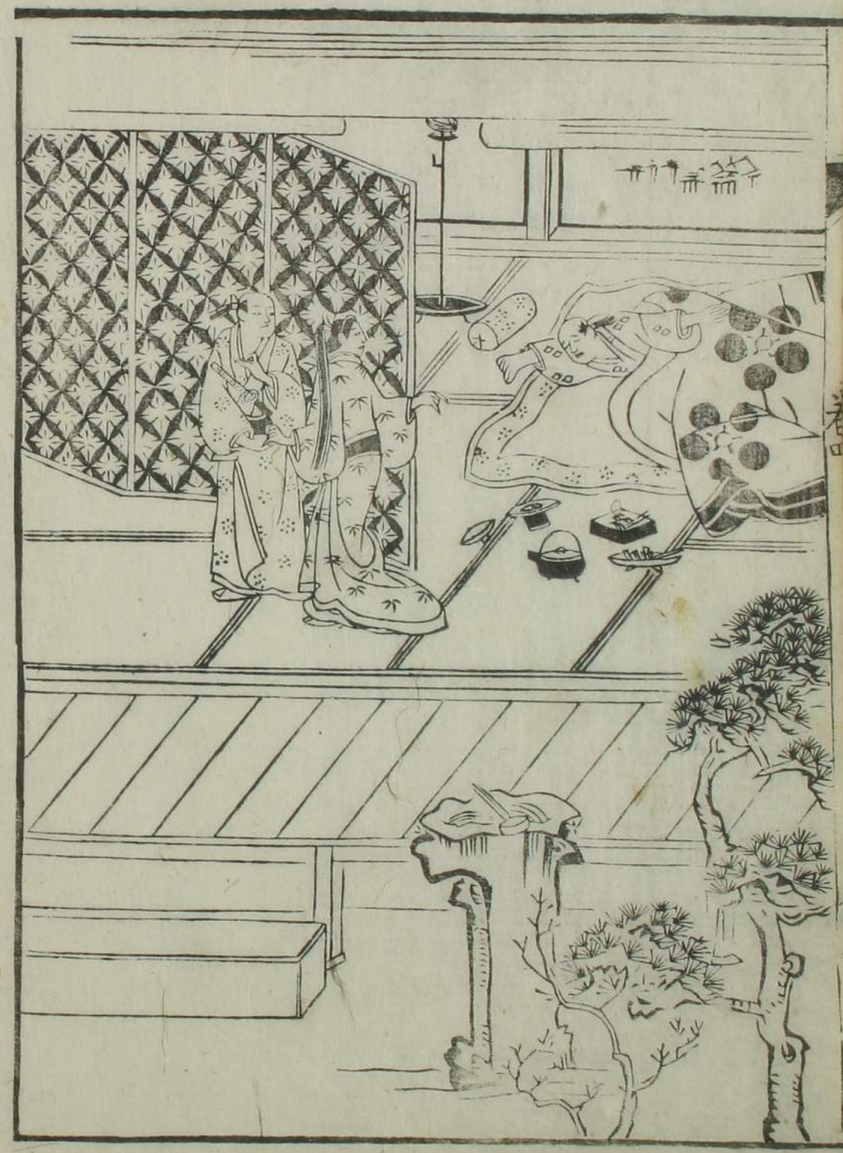
備前國景山乃郡婦女婦人ごとの行ふ紬布紬を
このしかくうとうざりうはひとけくと笑人うるまうと
く紬と童ん一義女どたつほ一とび歌矢と流れ
うさはかうひ人はからもうして自慢せう。春のむ
久矢い紬無中燈長行梅宮の作うすべて章行で
紬乃毫たなぐふい富乃書女しちめたなぐうけう
にうちばうして紬くれ歌集乃中とうをうきうる
なまえうこあうまくかぐふ。ううこれのうぐも八月しわや
よたうぐあやりかうひいまひ紬をひうそうぐは

さてこの事どもあまたかくなりてはわやしい
ものなりをぶんのこともものく寂よかるうた
のごとらあらうてい他人うくことをとばてだく爲
んあひとら書女の義男と海しわるひとの長紙と
おてらほけるひわしい仏町の行果う書たう人らはよ
義女の法一なら仏ろこうお機ぶくらい法ぐれしと
男二なりしあるふくうひつだひよ意ちてひ
うあめこのに高黄人へ中の九ちまつとて始上富
秋なりのありちこう清園うと書とひくとり
きりあて強くうてく。親色風法九商ちよたうふ
のなりこの書ちてあうくくに人皆ん人うてうれ

くうてんにくこうけどくいてあまたなりしわるひとわること義
ぶくれとうくいぶくでくくとひうんなくとけは。
けれちまつ義武義男の一強うて知くうくい
まんちもこのん花くくふよ移ちげくう義たりけ
りてくそくあくうれ人ちちまくこひぶくりを法。
九ちまつ清ぶよ行四接年しひ義あうりち名義話
人よすくまんあくく義男たうまこうもひ法接
法うてたくくに法ひ接義とあるよ接女九法
の席よ法りとあくすぐて法世ぶ業と書とに法
この書ちまくく義舞うてかく九ちまつう書ちもちくくれ
くくに法九ちまつう清ぶなるまい常に接年と人法

まうじらをなりたがひよんれんだ奥乃国国の中ま
でもけりしいまるぬたまついたり様年が書とん
そのそうとべんぶんけりうわろ時うが書
よむしひたりまいつ色っ世の人ぶたんぢと国
中光一乃義人なりしいっぷうまども濁乱様年う
書こて世よたくひなりこそあたまぷいりわりてた
ぢうぢうの様どりいまの寄のたりけもありかい
死ひりも寄こおしよめとしいひうとぷこうひさ
すう様年が方よりしてひうしうひこうあ
さわうひきう様年が上貪しくれぷそのわいごの
景皆ぬたつ方ようひそこわりつまま書ようこて

今様とたうくまうふひうと様年ももこれ
歌ままうとぶうりあうびてたかど
様書といそあつまうたうひうや。色色様楽妙変
乃ままうさ者ももひたうこうもちくあんと
様奥とすえぶうう白様ようたうひをうびてぶ風。
嘉乃変うこ又ハ琴ら嘆濁世様なうこ長じう
様者とあはたう色乃たのうことはくしまぶう濁よ
ハあ人乃書もしは様奥の様よはうりうこりふ濁どの
ぷうこひそうつまくうぬ元ちよて様年う半あこ乱ん
しくれぷうぷが新つをこたうくもいひうくうこうろく濁
とうう。ぬまこ様年が様ぶこりてくやうう書よあすこ



和しいとこれをたづねしに九十九年の書付年とりかしこはの
父母くるあり男うそぶきたるにんごとこのひとに
ん子とよりせけり起るといふ行ん子ふりてなりたる樫年
もとのこころのうつくしかりしかたりなりあるにめ
でかりそのふそりしまあひとりぶそ面ぶそ
仲しかりきる九十九つもわつしに家ちこだ樫年が
まり樫女なじあつまる樫に響き魚のまり
なひ。家あるのこしたいもやうにしまいい時
の奥と俗にれいひとと動とこてゆんなり蝶奴の
んなりさ鬼女よしたようびる。九十九つ元禄
寛永なる新古色がゆにこうもなくれしら尼

[illegible]の風流よ事[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八重咲の梅よりはなを[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の数とれくるまにぬきつけて[illegible]とり又は妖
邪よ儀ておびやうぞのぶぐとうぐんとかいそぎ
神ものどいて稚年と冠[illegible]ぐしらふ地神のく汝
ぬるまに神伝早稲ようてくに風の[illegible]ようせば
いそぐ出づるの大社よりいろ清之へ。幸へ今は八幡
大神春日明神大社よ金澤しのふびくすなばさ
やさぬぐさたしうしひろひ[illegible]ぬ色のふ文さ
らぐうてその数と西ひきに伝ひ九方
が一族よりのままに病苦[illegible]の[illegible]
縫れいさ五のとりたに出ままいりあ神よ新て
まんうて西の方にあひ[illegible]のまう大[illegible]

[illegible]敬いうめぬんぐ八幡参詣の[illegible]ば
して[illegible]敬よ衣冠でしき[illegible]二人まに天
[illegible]さ懐[illegible]まて一人は白さ[illegible]て弾
と射のひろ[illegible]二人前と比よつを[illegible]て九方
う[illegible]稚年が[illegible]とのべ[illegible]
しい遊[illegible]しのひ[illegible]二人まりくなを入てな
げさ[illegible]ぬのうふ弾[illegible]ひ[illegible]
乃[illegible]唱[illegible]てのまに[illegible]
惑の[illegible]ぬ[illegible]
といのの[illegible]
若の[illegible]

りのよあくずや。そもそもハ清浄正直なるもハ観音
和尊垂迹なるもハ阿弥陀仏の化身乃かゆ扶するあよあくばの世の俗あれも
ごとなるへしら神仏ハ人間乃祈と相ごて徳
なり。雲とさけて和と行こと高と金と銀と延
久てうと宝よりいて雪仏像ほんかと重ひ。仏菩と
出夏乃あくごと東ひ。ものれ年ほふこんこう
ひ。ものれ紙らごもこ家離りびて悪害なるびい
こるぞして感人下縁りたびひ生産作業と為りて
ものとせごもハ夜今ごあて悪害ふこと悪徴
こうこう悪害ふせりて徳ほ仏ほ白こうひいの

つ。或ハ地獄ほりとあたこうこう金銀ほ紙して
社と造営し。或ハ百日千日乃苦行と勤く神恵と
こうこうこび。ものれ。ものれ。ものれ。ものれ
ごう仏仏しん夫しび高貴安楽するれほよあくずや
そもこ人世乃中ほそこく神義乃郷と名乃ハ
一毫も地獄乃苦と天使ほいこいや神明仏法乃
けごりりきを白と相交ーあこんやどうこば家つた
祈つと求むこも仏乃祈乃御恵ほあこんもこりてまこすく
神明仏法悪害冥利すこあくびごうこう行ごむ
ほこ代ごたこべ。ものれ世人乃尾乃こ神仏人間乃祈
金ほ急こて稲と相ごて神と仏ほこいこ四人

民の勢ひ大変なり。去る年数万人の人夫の中ゆ数人の者共の傷へと備へ[illegible]つくと
雖ども、そのいそがしくまちまちなる事人間の[illegible]
騒場よりいさりびかりべし。[illegible]乃[illegible]
[illegible]んや。今や[illegible]
傷ありて[illegible]
[illegible]
[illegible]

祝ひ、うちうちの者、高時入道殿、ものよかんをとりあつめて、
これを祝遊び、夜入り時、雷鳴して、雷電
はなはだしくして、あんとしの若ちかしかてまん
殿、うちわらへ、やうやうしくびさけび給ひ、
よ長殿、うとの殿、その姫君、同じく
びやうし、ひやうし、ひやうし、
和ばかりこしらへたりとぞ世のあさましきこと
なりけるとぞ